

☆公害による健康被害
を許すな!

☆自然環境・
生活環境の
破壊を許すな!



オオマツヨイグサ

大阪から公害をなくす会 ニュース

大阪から公害をなくす会

〒540-0026 大阪市中央区内本町2-1-19

内本町松屋ビル10 370号

TEL 06-6949-8120

FAX 06-6949-8121

E-mail : oskougai@coast.ocn.ne.jp

URL http://oskougai.com/

発行責任者 金谷 邦夫

年間購読料一部2,000円(送料共)

郵便振替 00910-7-300387

浪江町訪問記

原発事故は収束していない

住めなくなった街からの報告

福島第一原発の事故は、汚染水漏れに象徴されるように、

「収束」とはほど遠い状態にあります。しかし、「収束」していかないのはそれだけではなく、この事故によって人が住めなくなった町、避難生活を強いられている10数万人の原発被害者にとっても同じです。

11月4日、福島市内で交流会を行った全国連絡会の参加者とともにバスで浪江町に入りました。浪江町は福島第一原発のある双葉町の隣り町で、一番近いところは原発から数キロのところにある「避難指示解除地域」です。案内していただいた地元の方の話を紹介します。



数キロ先の福島第一原発を望む



放置されたままの漁船。雑草に覆われる農地



ゴーストタウンと化した浪江駅前の繁华街



「希望の牧場」の売ることできない牛

●過酷な避難所での生活

避難所は、独身者は4畳半が1部屋のみ、世帯者は複数世帯でも6畳間が2部屋だけだ。隣との壁は薄く、会話が筒抜け。ストレスは大変なものだ。世帯を分けて入居するケースも多く、そのため人口は減っているのに世帯数は増えると言う現象が生まれている。子どもたちには、肥満児が増えている。学校の先生は、明らかに運動能力が低下しているといっている。

二世帯同居世帯も悩みを抱えている。姑は少くく放射能があっても大丈夫だとして料理して食べさせようとする。嫁さんは子どもの健康を気遣って食

●いっぱいいる原発関連死者

家は外目にはしつかりしているように見えるが、もう2年数カ月も閉め切ったままなので、中はカビが生えたり、床が腐ったりして、使いものにならない木造家屋も多い。帰ることをあきらめる人もいる。

避難指示で移動中に亡くなった人、将来を絶望して自殺してしまつた人、沢山いる。みんな原発事故による犠牲者だ。自民党の国会議員が「原発事故で死んだ人はいない」と言ったが、とんでもない話だ。原発は農業を奪い、家族の生活を破壊し、コミュニティをズタズタ

に引き裂いている。

●生きた抗議のシンボル

「希望の牧場」で飼っていた330頭の牛を放置して逃げろと言われたが、そんなことはできなかった。毎日、停止線をかいくぐって牧場に戻り、餌をやり続けた。牛の殺処分は原発事故の証拠隠滅だ。飼って生き続けさせ、高濃度の被曝をした牛がどんなことになるか、研究材料に使ってほしい。この牛は、東電の原発事故に対する抗議のシンボルだ。

浪江町の繁华街には人つ子ひとりいない。誰かが「イタチが走って行った」と言った以外、犬や猫もいませんでした。田圃は黄色い花が咲き、まるで「菜の花」畑のようでしたが、実はセイダカアワダチ草の群生で、荒れ放題でした。そんな中に、津波で打ち上げられた漁船が、その時のままの姿で放置されていました。福島の実態を学ぶことは、原発ゼロをめざす運動の原点と思いました。

(中村 毅)